

# 2016 PC Conference

## 「知の協奏と共創」

開催日時:2016年8月10日(水)11日(木)12日(金)

開催場所:大阪大学豊中キャンパス(大阪府豊中市待兼山町)

公式サイト:<http://www.ciec.or.jp/event/2016/>

主催:一般社団法人CIEC(コンピュータ利用教育学会) / 全国大学生生活協同組合連合会  
後援:(申請中)大阪大学, 文部科学省, 経済産業省近畿経済産業局, 大阪府教育委員会,  
豊中市教育委員会, メディア関係

参加費:一般:5,000円(当日6,000円) 学生・院生:1,500円(当日2,500円) ※CD論文集付(税込)  
※レセプション5,000円,イブニングセッション500円は別途

### ■PCカンファレンスの特徴

- 1.教職員がそれぞれの専門領域を越えて,コンピュータ教育,それを使った教育,研究について議論し経験を交流する場であること。
- 2.幅広く,初等教育から生涯教育までを視野に入れること。
- 3.大学院生・学生のレポートや運営への参加を大切にすること。
- 4.海外の先進事例にも視野を広げ,たえず新鮮な刺激を取り入れること。
- 5.教育と研究の実践に焦点を合わせ,ハードやOSの違いにこだわらないこと。
- 6.完成された報告だけでなく萌芽的な経験も含め,だれでも気楽に報告できる場であること。
- 7.企業から提供される,最新のコンピュータ教育に関する情報を共有すること。

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月10日 (水)		※8月9日(火):プレ企画 Panasonic神戸工場見学			全体会 基調講演 12:00-14:30		ITフェア インデキシング 14:40-15:50		シンポジウム1 16:00-18:00 シンポジウム2 16:00-18:00		イブニング セッション 18:30-20:00		
8月11日 (木)			分科会(口頭) 9:30-11:55		CIEC総会 (12:30-13:45)		分科会 (ポスター) 14:00-15:00		分科会(口頭) 15:30-17:25		レセプション 18:00-19:45		
			ITフェア 10:30-17:00										
8月12日 (金)			分科会(口頭) 9:00-11:25		セミナー1 12:00-13:30 セミナー2 12:00-13:30		セミナー3 13:45-15:15 セミナー4 13:45-15:15						

※時間及び企画は変更の場合がございます

お問い合わせ先:PCカンファレンス実行委員会事務局  
〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協会館 4階(CIEC事務局内)  
TEL:03-5307-1195 FAX:03-5307-1180 E-MAIL:[pcc-info@ciec.or.jp](mailto:pcc-info@ciec.or.jp)

## よう来なさった！ ほんま大阪は、暑いとこでっせ。

8月のこんな暑い時に、よう皆さん来なさった。ほんまおおきに！ 前の富山とか、その前の北海道とはえらいちゃうなああと、思てはらしません？ さて、2016年のPCカンファレンスは、大阪の北部に位置する大阪大学豊中キャンパスにおいて、「知の協奏と共創」という全体テーマで開催されます。実行委員会を代表して、皆様のご参加を心から歓迎いたします。

今年の全体テーマは、大阪大学・西尾章治郎総長が掲げるOUビジョン2021の基礎となった考えで、PCカンファレンスのテーマとしてもふさわしいと考え、利用させていただいたものです。その背景にあるのは、科学技術がますます高度化し、複雑化する中で、私たちが知を協奏（concert）することにより、知が共創（co-creation）されるというビジョンであります。コンピュータを教育に利用するためには、情報技術者だけでなく、教育学や教育工学、教えるべき内容の専門家、そして学習者をふくめ、多くの人々が協奏することが重要です。新しいコンピュータやICT機器を教室に導入しただけでは何も変わらないことを、私たちは既に知っています。その技術の可能性と本質を見極めて、適切な形で利用することが重要で、そのためには様々な専門家との協奏が不可欠です。協奏することにより、新しい考え方や知が共創されるのではないのでしょうか？ PCカンファレンスは、そのような多様な専門家がともに情報を交換し、協奏することのできる大変ユニークな機会です。小中高校や大学の教育の現場に立たれている先生方から、先生を支える情報基盤を運用するスタッフや関係分野の研究者の方々、大学生協、ICT関連企業の方まで全ての参加者に協奏の機会が与えられています。そして、共創への連帯を作っていきましょう。そのためには、一人ひとりがイメージーションをめぐるせ、夢を語り、垣根を取り払い、前へ進むことが重要です。そのお手伝いを少しでもできればと実行委員も張り切っています。

大阪は、庶民が街を作り、発展させてきた場所です。大阪大学も、庶民が開設した私塾をルーツに大阪の人々が中心となって設立した大学と言われています。ぜひ、この場所で大いに未来の教育について語り合ってください。大阪は「食いだおれ」の街としても有名で、食文化の発展した場所でもあります。会議後は最寄駅の阪急石橋付近に数多くある居酒屋でその続きをされるもよし、キタやミナミの繁華街へ行かれるもよし。大いに盛り上がってください。ただ、食べ過ぎ飲み過ぎにはあきまへんで。ほんま、ぎょうさん楽しんでください！

### 実行委員長

竹村 治雄 大阪大学サイバーメディアセンター教授

### 副実行委員長

熊坂 賢次 慶應義塾大学環境情報学部教授・CIEC会長理事

### 実行委員

井内 善臣 神戸山手大学

上田 貴洋 大阪大学

北河 康隆 大阪大学

進藤 修一 大阪大学

武沢 護 早稲田大学高等学院／早稲田大学

長岡 健 法政大学

平田 義隆 京都女子中学校・高等学校

眞崎 克彦 関西大学

松葉 哲史 法政大学生活協同組合

宿久 洋 同志社大学

岩居 弘樹 大阪大学

岡田 憲明 大阪大学生協同組合

清川 清 大阪大学

住野 誠司 大学生協東京事業連合

鳥居 隆司 椋山女学園大学

中西 通雄 大阪工業大学

深瀬 浩一 大阪大学

松下 慶太 実践女子大学

三浦 貴司 全国大学生協同組合連合会

吉田 晴世 大阪教育大学

## 【基調講演1】 日本の高等教育における教育情報化を考える

小林傳司 大阪大学 理事・副学長(教育担当)

情報通信技術 (ICT) が高等教育に取り入れられるようになって 20 年以上が経過しているが、日本における ICT の本格活用には、常に欧米より数歩遅れていると言わざるを得ない状況ではないかと思われる。本基調講演では、大阪大学での教育情報化の歩みを時系列的に振り返ると共に、それぞれの技術がどのような教職員や学生によって受け入れられてきたかを紹介する。具体的には、情報教育環境の変遷と現状、授業支援システム (Course Management System) の導入と普及の経過、持ち込み PC への対応状況と仮想デスクトップ環境の導入、MOOC をはじめとするオンライン教材の作成状況、その他の教育情報化ツールの導入状況等を、その利用率等を含めて紹介する。

大阪大学では、これらのツールの導入は、教育担当副学長配下の教育情報化 WG が全学的な観点から企画立案を行っており、学部主導のツールの導入とは異なる、学内での教育情報化ツールの統一と一元管理が実現できている。しかし、利用の普及の観点からは課題も多い。特に日本の高等教育機関における教育情報化は、情報処理センターのような技術系センター主導により推進される事例が多く、教授学的な観点からの利用者支援や普及促進の方策の展開に問題があることはしばしば指摘されている。本講演の後半では、教育情報化を推進するために、解決されるべき日本特有の種々の問題について、講演者の私見を交えて、様々な観点から考察するとともに、その解決方法について議論する。また、教育情報化を適切に推進し、普及を促進することで、研究のみならず教育の分野においても「知の協奏と共創」が実現可能であることについても言及する。

## 【基調講演2】 知が変容しつつあるいま、教育・学習はどうあるべきか

若林靖永 京都大学経営管理大学院長・CIEC理事

知のあり方が問われているし、変容を迫られつつある。知は高度かつ複雑になり、市民が理解し参加することを困難にしており、結果、科学リテラシー、科学コミュニケーションの役割が目ざされている。知はネットを通じて検索してすぐに得られる単なる情報・知識になっていき、知の探究・協働・活用に注目がシフトしている。知はAI (人工知能) がビッグデータなどの膨大な情報から機械学習、ディープラーニングを通じて探究してくことで、そのプロセスがブラックボックスになりつつあり、もう人間では処理できない膨大な情報量を処理し、そこから新たな知を生み出すようになりつつある。

これらのように、知のスタイルは変革を迫られており、それは知の継承・再生産をすすめる教育・学習の変革を要請している。知はそもそも個人的な探究・経験であると同時に、社会的な関係性の中での営為である。知が今日のような高度な水準に達してきているのは、まさに「巨人の肩に乗って」集合的な知の探究の累積の結果にほかならない。大学や学校だけが知を独占しているわけではないが、大学はまさに知の探究と知を担う市民の再生産を行うコミュニティである。この大学・学校が知のスタイルの変革に伴い、いま大きな変革の過程に突入している。

部分的な知ではなく、総合的な市民の「コモンセンス」としての知、現代的教養、科学リテラシー、批判的思考等を学ぶことがますます重要になっている。そして個人生活、経済活動、社会活動などにおいて知を理解・吟味・活用することがますます求められるようになっており、アクティブラーニングのように、インプットのみならずアウトプット、創造的な協働作業にシフトしつつある。EBM (根拠に基づく医療) のように、知を主観的ではなく、より合理的に吟味・活用することが医療のみならず、教育や経営など、広く求められるようになりつつある。AIが社会のあらゆる領域に活用されるようになることで、現在の職業の多くが失われると予測されており、人間が担う知の領域は何かということがそもそも問われつつある。

本基調講演では、このような知と教育・学習の現在進行形のダイナミズムについて問いかけ、探究する。

【シンポジウム 1】 16:00-18:00 大阪大学会館 講堂

「多様なメディアを高度に利用する授業形態の高度化」

近年、大学生のスマートフォンやノートパソコンの所有率が約9割に達するなど、多くの生徒・学生がICT機器を当たり前のように使う時代となりました。これに歩調を合わせて、教育現場におけるICT活用の流れは加速しつつあります。教室の中では初等教育時点から電子黒板、デジタル教科書、タブレット端末などが次々に導入され、ICT機器の存在を前提とした授業が実践されつつあります。また、教室の外ではeラーニングや遠隔講義の活用が進み、大学レベルの講義をオンラインで公開するEdXやCourseraなどのMOOCsが普及しつつあります。一方、学習者や教育者のログやポートフォリオを解析し、学習コンテンツのパーソナル化や授業の改善点の明確化などを目指す試みもはじまっています。

今、こうした高度な授業形態はどこまで進んでおり、どのような課題を抱えているのでしょうか。学習者が様々なICT機器を所有していることを前提にしたとき、今後教育機関はどのようなインフラを整備し、どのようなサービスを提供していくべきでしょうか。

本シンポジウムでは、このように多様なメディアを活用して高度化する様々な授業のあり方や、それを支えるICT技術の最新状況、および今後の可能性について、様々な実践例を交えて、議論していただきます。

パネリスト（五十音順）

岩居弘樹 大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部教授  
緒方広明 九州大学 基幹教育院 ラーニングアナリティクスセンター教授  
加藤直樹 東京学芸大学 教育実践研究支援センター准教授  
櫻田武嗣 東京農工大学 総合情報メディアセンター講師  
田村恭久 上智大学 理工学部情報理工学科教授

モデレーター

清川 清 大阪大学サイバーメディアセンター准教授

【シンポジウム 2】 16:00-18:00 全学教育推進機構 大講義室

「MERLOT型ラーニングコミュニティ支援とは」

MERLOT(The Multimedia Educational Resource for Learning and Online Teaching)とは、米国・カリフォルニア州立大学が中心となり高等教育における学習・教育の質向上のためのオンライン教材の集約・開発を目的とした国際協力団体で、高等教育機関、企業、非営利団体等との連携により運営されている。今回、CIECがグローバル化の一環としてMERLOTとの国際的なパートナーとしてこのプロジェクトに参画することになったことを機会に、MERLOTをより多くのCIEC会員に紹介し、このプロジェクトへの積極的な参加を促したい。

そこでこのシンポジウムでは、会員が現在、作成・運用しているWEBコンテンツの事例を紹介しあい、CIECとしてMERLOTに提供可能なコンテンツを見いだし、CIEC会員のコンテンツ制作のインセンティブを喚起したい。そしてさらに、今後の初等中等教育および高等教育におけるMERLOT型ラーニングコミュニティ支援のあり方、可能性および問題点について議論する。

パネリスト

Dr. Gerard L. Hanley Executive Director, MERLOT CSU Office of the Chancellor  
皆川雅章 札幌学院大学  
星健太郎 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター  
サルバ・ミシュカ・カ ril 大阪教育大学

モデレーター

吉田晴世 大阪教育大学  
武沢 護 早稲田大学大学院・高等学院

【IT フェアインデキシング】14：40-15：50 大阪大学会館 講堂

毎年好評の「インデキシングタイム」を初日8月10日の基調講演とシンポジウムの上に設けました。インデキシングとは「目次」のことです。IT フェア出展の各社にステージ上で1分間の「私のブースは面白いぞ」「新製品なので来てね」とアピールをしていただきます。つまり、ブース全体の「目次」セッションで、参加者が翌日11日に興味があるブースへ直行することになります。

【イブニングセッション】18：30-20：00 ステューデント・コモンス 2F

参加者の方々から企画を公募し、下記のテーマで実施する事になりました。ワークショップという「学びの場」に関心のある方々や、口頭発表やポスターセッションでは伝わりにくい実践・研究上の効果や課題について意見交換の場を持ちたいと考えている方々の参加をお待ちしています。(参加費：500円)

<ワークショップ型> (1) 外国語教員のための EPUB (電子書籍) 作成講座 Part2

主催者：清原文代 (大阪府立大学高等教育推進機構)

EPUB は実質的に電子書籍の世界標準で、EPUB3 からは画像に加えて音声や動画を内包することができ、更に音声の再生と同期してテキストがハイライト表示されるメディア・オーバーレイにも対応し、EPUB で外国語教材を作成する環境が整ったと言える。

本ワークショップは 2014 PC カンファレンスのイブニングセッション「外国語教員のための EPUB (電子書籍) 作成講座」の続編である。2014 年度以降に新たに登場した EPUB 作成ソフトや EPUB 閲覧ソフトを紹介しつつ、参加者の持参した機器 (ソフトの事前インストールが必要) を用いて、ハンズオン形式で音声入り EPUB3 の作成を行う。使用予定のソフトは以下の通りである。

Windows, Mac OS X : Sigil (無料) iPad : Book Creator (有料, 無料試用版あり)

iPad, iPhone : Creative Book Builder (有料)

<ワークショップ型> (2) iPad による PDF 型デジタル教科書体験会

主催者：田中雅章 大橋学園 ユマニテク看護助産専門学校

共催者：名和輝明 京セラ丸善システムインテグレーション株式会社教育サービス部

金森正晃 丸善雄松堂株式会社学術情報ソリューション事業部

主催者が所属する専門学校では、平成 27 年度よりデジタル教科書を 39 冊導入しました。その内訳は、専門書 37 冊、英語 1 冊、レポートの書き方 1 冊の本格的な導入です。使用するデバイスは iPad mini2 32GB シルバーです。平成 27 年度に 81 人の利用者でスタートし、平成 28 年度はさらに 80 名の利用者を予定しています。

最初にデジタル教科書のプラットフォームや仕組みを説明します。このプラットフォームはデジタル教科書だけではなく、学校管理者が Office ファイル、PDF、動画の登録ができます。実例では授業で使った PowerPoint やプリントを登録しました。

次に、iPad を使いながら大学生向けデジタル教科書の体験をします。今回、体験するのはデジタル教科書の基本操作とよく使う機能です。デジタル教科書を実際に操作し、何ができるのか、参加したみなさんがその特徴をつかんでいただけたら幸いです。

<交流型> (1) manaba でマナ場 night

主催者：産業能率大学 情報マネジメント学部 古賀暁彦

共催者：立命館大学 生命科学部 生命情報学科 木村修平

近年、利用する大学が急速に増加している教育支援ツール manaba。しかし、商業ベースのクラウド型サービスのためか、ユーザーがコミュニティを作り、活用方法の情報を共有したり、システム改善の方

向について話し合ったりする場がありません。このセッションは manaba を使っている大学の教職員が集まり、効果的な活用方法や困っている点の情報を交換しあうことを目的に開催します。

具体的には manaba の各機能（小テスト、レポート、コンテンツ、アンケート等）について、使用した感想、効果的な活用方法、システムへの改善要望などをガチで語り合います。当日は朝日ネットの方にもお越しいただき、ユーザーの声を直接届ける予定です。

あえて manaba という個別具体的なシステムに特化して話し合うことから、普遍的な ICT 活用教育の課題を見出せればと考えております。従いまして manaba ユーザーでない大学教職員の方、他のシステムベンダーの方、学生さん等の参加も大歓迎します。

<交流型> (2) 大学生協 PC 講座のこれからについて～各地の特色ある取り組みから考える～

主催者：情報生活サポート研究会（CIEC 九州支部・大学生協九州事業連合）

共催者：CIEC 生協職員部会、全国大学生協学びと成長事業協議会

全国の約 100 大学において開講され、受講生 17,000 人に至っている大学生協 PC 講座については、各地で様々な取り組みがなされています。

昨年に引き続き、これらの取り組みで得られた知見やノウハウ等を共有し、PC 講座のこれからの模索すべく交流会を企画しました。

今回のイブニングセッションでは、各地で特色ある取り組みをされている皆さんにご発表いただき、それらについての質疑応答、情報交換やディスカッションを通じ、PC 講座の改善や今後のあり方等について考えます。

PC 講座に関わられている学生スタッフ、生協職員・理事の方々はもちろん、情報教育に関する知見をお持ちの教職員の方々のご参加を歓迎します。

また、発表者も募集します。発表を希望される方は下記までご連絡ください。

連絡先：大学生協九州事業連合学び支援グループ 松浦 matsura@kyushu-bauc.or.jp (@を半角にしてください)

■■ 8月11日（木）■■

【IT フェア】10：30-17：00 学生交流棟 宙（そら）

IT 技術の進歩により、私たちの生活は大きな変化を遂げています。恒例の IT フェアには、多くのコンピュータや教育関連企業の方にご出展をいただいております。各分野の「最新」「最先端」の技術の情報が入手でき、実際に機器やソフトを試すことができます。教育・研究素材の収集や交流の場として大変好評を得ております。ぜひ IT フェア会場にお寄りください。

【分科会】

詳細は 9～12 ページをご覧ください。口頭 69 本、ポスター 31 本の発表があります。

口頭発表 全学教育推進機構

8月11日（木） 9：30-11：55 15：30-17：25

8月12日（金） 9：00-11：25

ポスター発表 大阪大学会館 アセンブリホール

8月11日（木） 14：00-15：00（発表者立ち会い時間）

<口頭発表テーマ>

8月11日（水）9：30～11：55

A: アクティブラーニング (1)

B: 小学校教育

C: システム

D: 学習教育環境支援 (1)

E: 大学初年次教育

8月11日(水) 15:30-17:25

- A: 語学教育
- B: PCリテラシー
- C: 数理・統計教育
- D: 情報教育実践(1)
- E: キャリア支援

8月12日(木) 9:00~11:25

- A: アクティブラーニング(2)
- B: 中高教育
- C: プログラミング教育
- D: 学習教育環境支援(2)
- E: 情報教育実践(2)

【レセプション】18:00-19:45 豊中福利会館

2日目の夜に行われるレセプションは参加者のみなさまを歓迎する立食パーティ形式です。和やかな交流、懇談の場です。お気軽にご参加ください。(参加費:5,000円)

■■ 8月12日(金) ■■

■セミナー■12:00-15:15 全学教育推進機構

【セミナー1】12:00-13:30

「小中高で身に付けるべき『情報力』とは」

2020(平成32)年度から順次、全面実施に入る次期学習指導要領の基本方針では、教員が「何を教えるか」から、児童生徒が「何ができるようになるか」という視点に立ち議論が進められています。

また、高大接続の観点からは、2020年度からの新共通テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」が検討され、記述式問題のイメージ例では、統計資料を基に仮説を立てさせる問題や新聞記事を読ませて自分の考えを記述する問題など、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した改革が検討されているところです。このセミナーでは、「思考力・判断力・表現力」を総合的な「情報力」と捉え、入試改革の基本となる新学習指導要領を見据えた、児童生徒が身に付けるべき「情報力」について、小学校・中学校・高等学校・大学の各教員からそれぞれ現在の実践や各校種での話題を提供していただき、会場も含めた形でパネルディスカッション形式で開催します。

パネリスト

- 芝池宗克 近畿大学附属高等学校・中学校教諭
- 増田憲昭 近畿大学附属高等学校・中学校教諭
- 中西洋介 近畿大学附属高等学校・中学校教諭
- 五十嵐俊子 東京都日野市立平山小学校校長
- 永井克昇 千葉商科大学教授

コーディネーター

- 平田義隆 京都女子高校・京都女子大学

【セミナー2】12:00-13:30

「電子書籍ビューアから得られるデータを活用した学習分析・導入事例研究」

このセミナーでは、(株)大学生協事業センターが提供する電子書籍ビューア「VarsityWave eBooks 専門書学

習ビューア」を用いて講義の教科書を配信し、電子書籍ビューアから提供されるビューア利用ログデータをもとに学生の学びを分析した事例を報告する。また、得られた分析結果をもとに学生への指導や教授法の改善の検討を行っており、学生の学びを深化させる事例を報告する。

参加者とともにディスカッションを行い、電子教科書を用いた講義の導入、電子書籍が学生の学びに与える効果、講義改革の可能性について探る。

講演者

針持 和郎 広島修道大学 英語英文学科准教授  
有賀 清一 桜美林大学 ビジネスマネジメント学群講師

### 【セミナー3】 13：45-15：15

「2020年に向けた電子デバイスを活用した学習・教育環境の変化を考える  
～小中高の情報教育の変化と大学での情報教育の変化～

2020年は大学入試の大きな変革の年になる。それは大学入学希望者学力評価テスト（仮称）が導入予定になり、大学の個別入試も入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を明確にすることがもとめられる。

小中高では電子デバイスを利用する学びが行われており、生徒自身は「自ら考え」、「利用する」ことで社会へ適応する能力を身につける実践が行われている。

一方、大学での初年次の情報教育についても、「文章作成」「プレゼンテーション」「情報モラル」から変化が起こってきている。

高大接続の観点を中心に、高等学校・大学の教員を中心に学習・教育環境の変化を報告いただき、教員・学生・生協職員参加者とともに考える場としたい。

### 【セミナー4】 13：45-15：15

「CIEC会誌『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするためにー歓迎される原稿とはー」

CIEC会誌『コンピュータ&エデュケーション』誌は、コンピュータやネットワークを活用した教育や教育実践に関する研究を「論文」や「事例研究」などにまとめて投稿し発表する場として、1996年の創刊以来、40号まで発刊を重ねてまいりました。「教育」を基本軸に様々な分野からの投稿が見られるのも、本誌の大きな特徴の一つです。

会誌をより充実させることを目的に、PCカンファレンスでは2009年以来、編集委員会がセミナーを開催しております。「会誌『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために」という一貫したテーマのもと、論文の書き方、リサーチの方法、なぜリジェクトされるのか、歓迎される原稿とは、求められる論考と期待される内容、教育調査データの活用について皆さんと考えてきました。

さて、会誌には投稿原稿のカテゴリーとして、現在「論文」「事例研究」「Software Review」「私の意見」の4つがございます。今回のセミナーでは、それぞれのカテゴリーでどのような投稿内容が想定され、また歓迎されるのかについて、あらためてご紹介をしたいと考えています。特に「論文」と「事例研究」との違いを明確にすることで、本会誌で歓迎される投稿内容に関する理解を深めたいと思います。

今回のセミナーにふるって参加下さり、『コンピュータ&エデュケーション』誌への投稿をお考えいただく機会にしていいただければ幸いです。

パネリスト

中村泰之 CIEC会誌編集委員長（名古屋大学）  
籠谷和弘 CIEC会誌編集委員（関東学院大学）  
松浦 執 CIEC会誌編集委員（東京学芸大学）



■分科会8月11日(木) タイムテーブル

時間	9: 30～ 9: 55	10: 00～10: 25	10: 30～10: 55	11: 00～11: 25	11: 30～11: 55	
テーマ	アクティブラーニング(1)					
A	11-A-1 阿濱志保里 山口大学 知的財産センター 初年次教育における反転授業に基づく知的財産学習の効果	11-A-2 石村源生 北海道大学 高等教育推進機構 サイエンスカフェ参加者の同時並行的・重層的経験群の間の関係性	11-A-3 曾我聡起 千歳科学技術大学 インタラクティブなデジタル教科書用素材共有・作成支援システムの利用	11-A-4 矢部正之 信州大学 高等教育研究センター 能動的学習を深めるためのICT活用の現状と課題	11-A-5 小林昭三 新潟大学教育学部 明治後授業筆記収録庫で辿る能動学習型理数教育の進展とICT基盤上での現代的再構成	
	テーマ	小学校教育				
	B	11-B-1 布山浩司 都留文科大学 初等教育学科 ICTを活用した図画工作の活動についてー3D・動画データへの対応に関する考察ー	11-B-2 尾池佳子 八王子市立下柚木小学校 ICTを活用した子供と地域を共に育てる作品展	11-B-3 福島健介 帝京大学教育学部 授業動線記録・分析システムを用いた授業分析の実施と提案	11-B-4 興治文子 新潟大学教育学部 理科教材史を踏まえた小学校理科における実験・観察の気づきを深めるICT活用	11-B-5 相澤崇 琉球大学 小学校低学年算数科におけるタブレットPCを用いた授業実践
テーマ		システム				
C		11-C-1 吉川桂太郎 金沢工業大学 双方向授業システムの情報保存活用機能	11-C-2 山田圭祐 金沢工業大学 双方向授業システムの多選択肢化と高精度化の検討	11-C-3 原田和明 大阪工業大学 情報科学部 OpenStackを利用した仮想ルータ設定演習システムの開発	11-C-4 中村泰之 名古屋大学情報科学研究科 モバイルデバイス用数式入力支援環境の拡張	11-C-5 石川智久 金沢工業大学 錯視シミュレーションを含む色彩学習システム
	テーマ	学習教育環境支援(1)				
	D	11-D-1 矢島彰 大阪国際大学グローバルビジネス学部 基礎学力向上と学習習慣の定着を目指したタブレットによるオンラインコンテンツの利用	11-D-2 片平昌幸 秋田大学大学院医学系研究科 EラーニングシステムとOSSを用いたストリーミング動画配信サーバの連携の実践報告	11-D-3 木村修平 立命館大学生命科学部 生命情報学科 学生が大学に持ち込む携帯情報端末と学内電子リソースの活用に関する実態調査	11-D-4 加藤成明 愛知産業大学 ICTを利用した学修支援システムの状況と検証	11-D-5 妹尾堅一郎 NPO法人産学連携推進機構 一橋大学大学院商学研究科 「コンピュータ自体を教育する」時代の到来：教育とコンピュータの関係に関する一考察
テーマ		大学初年次教育				
E		11-E-1 皆川雅章 札幌学院大学 大学初年次における基礎的計算力育成方法の検討 - 動画教材と学習用ノートの活用 -	11-E-2 星健太郎 早稲田大学 グローバルエデュケーションセンター 早稲田大学入学前導入教育(情報)2016	11-E-3 篠田有史 甲南大学共通教育センター 情報基礎教育における学習者の教材選択と「学びのスタイル」	11-E-4 阿部一晴 京都光華女子大学 キャリア形成学部 全学情報リテラシー科目における情報活用可視化の試み	11-E-5 谷口亮介 中村学園大学流通科学部 大学の情報リテラシー教育と高校教科「情報」の関係

■分科会8月11日(木)午後 タイムテーブル

時間	15: 30~15: 55	16: 00~16: 25	16: 30~16: 55	17: 00~17: 25
テーマ	語学教育			
A	11-A-6	11-A-7	11-A-8	11-A-9
	入江公啓	小張敬之	中溝朋子	綾皓二郎
	志學館大学	青山学院大学	山口大学	みやぎインターカレッジ コープ
	タブレットを利用した協 同的な英語の学習の 試み	反転授業を利用した英 語教育の効果	日本語学習者のため のコロケーション検索 システムの開発	サマセット・モーム著 『Red』と日本語訳『赤 毛』の一読者による比 較検討
テーマ	PCリテラシー			
B	11-B-6	11-B-7	11-B-8	
	長澤直子	大岩徹郎	北村士朗	
	大阪成蹊短期大学	名古屋大学生協新入 生サポートセンター	熊本大学大学院社会 文化科学研究科	
	日本語入力時の[変 換]操作と[Enter]キー の操作	名古屋大学生協新入 生サポートセンター学 生スタッフによるパソ コン講座について	大学生協九州事業連 合2015年度PC講座 共通カリキュラム化の 評価・分析	
テーマ	数理・統計教育			
C	11-C-6	11-C-7	11-C-8	
	天野徹	佐藤翔太郎	竹内光悦	
	明星大学人文学部人 間社会学科	東京学芸大学	実践女子大学人間社 会学部	
	モバイル環境による統 計学教育の問題点に ついて一文系学生の 学習支援の可能性と 懸念	確率論・統計学初学者 におけるプログラミング を用いた指導方法 の提案	問題解決力の検証を 踏まえた短期集中型 データ活用授業の導 入と課題	
テーマ	情報教育実践(1)			
D	11-D-6	11-D-7	11-D-8	11-D-9
	有賀啓之	田中雅章	森夏節	村井万寿夫
	株式会社DBPowers (千歳科学技術大学)	大橋学園 ユマニテク 看護助産専門学校	酪農学園大学環境共 生学類	金沢星稜大学
	理工系大学における 情報デザイン学の実 践	演習室のない情報処 理演習の運営	フィールド調査を用い たコンピュータリテ ラシーの利活用	総合的学習の要素を 取り入れた情報リテ ラシー授業の計画・実 践・評価
テーマ	キャリア支援			
E	11-E-6	11-E-7	11-E-8	11-E-9
	松浦寛	白土由佳	石川高行	木川明彦
	東北学院大学 工学部 機械知能工学科	産業能率大学経営学 部	大阪国際大学グロー バルビジネス学部	宮城大学大学院事業 構想学研究科
	クラウドと電話会議を 利用した履歴書添削に よる”就職質率”の向 上	ソーシャルメディアを活 用した業種別のワー クスタイル分析	online 練習問題に対 する学生別短期目標 指示の有用性	電子会計を中心とした 人材教育の可能性～ 能力の分散・結合の視 点から～

## ■分科会8月12日（金）午前 タイムテーブル

時間	9: 00～ 9: 25	9: 30～9: 55	10: 00～10: 25	10: 30～10: 55	11: 00～11: 25
テーマ	アクティブラーニング(2)				
A	12-A-1	12-A-2	12-A-3	12-A-4	12-A-5
	瀬川忍	山住富也	河又貴洋	佐藤実	荒巻恵子
	金沢大学 ICT教育推進室	名古屋文理大学	長崎県立大学シーボルト校国際社会学部	東海大学清水教養教育センター	帝京大学大学院教職研究科／早稲田大学高等学院
	金沢大学のICT教材作成の取り組み ～Mooc教材を中心に～	e-Learning教材を用いた反転授業の試み	ICTは非認知能力を開発することができるか	アクティブラーニングとICT利用教育のレポート奮闘記1	情報科における対話的教育(Dialogic Teaching)の検討
テーマ	中高教育				
B	12-B-1	12-B-2	12-B-3	12-B-4	12-B-5
	平田義隆	吉田賢史	加藤範男	荒川昭	世良清
	京都女子高等学校	早稲田大学 高等学院	横須賀市立横須賀総合高等学校	慶應義塾普通部	三重大学大学院地域イノベーション学研究科／三重県立津商業高等学校
	スマートフォンを利用した統計教育におけるアクティブ・ラーニングの取り組みについて	能動的学習を刺激する認知思考特性と思考表現特性を利用した学び	映像表現学習の現状とデジタルテキスト	慶應義塾普通部におけるICT教育	「若き『匠』育成プロジェクト」の3年間の活動と成果・課題
テーマ	プログラミング教育				
C	12-C-1	12-C-2	12-C-3	12-C-4	12-C-5
	布施泉	西川和隆	土肥紳一	箕原辰夫	藤林博貴
	北海道大学情報基盤センター	金沢工業大学	東京電機大学 情報環境学部	千葉商科大学政策情報学部	大阪工業大学情報科学部
	大学の一般情報教育の中でのプログラミング教育の実践	プログラミングのビジュアル学習システムのコースウェア化	ArduinoによるコンピュータプログラミングAを教わった後のハードウェア入門2	Pythonを利用した数値計算プログラミングの教育について	プラレールを用いた計測・制御学習教材の小型化とArduBlockのタイルの利用
テーマ	学習教育環境支援(2)				
D	12-D-1	12-D-2	12-D-3	12-D-4	12-D-5
	丹羽洋介	松浦執	森田賢太	上原亮太	笹谷康之
	東北学院大学大学院機械工学専攻	東京学芸大学基礎自然科学講座	東海大学情報通信学研究科	札幌学院大学法学部	立命館大学
	Moodleと形態素分析「MeCab」を用いた自発性が学習効果に及ぼす影響	Web学習システムのインターフェースとしてのヒューマノイド・ロボットとの対話開発	視覚障害者の学びを支えるための物体認識システムの構築	ICTを用いた聴覚障がい学生支援の試み - 音声認識によるパソコンテイク代替の課題 -	大学生協共済連が推進する自転車安全マップ・フェーズ1の開発と運用
テーマ	情報教育実践(2)				
E	12-E-1	12-E-2	12-E-3	12-E-4	12-E-5
	角南北斗	片岡久明	菅谷克行	立田ルミ	北村士朗
	フリーランス	南九州短期大学	茨城大学人文学部	獨協大学経済学部	熊本大学 大学院社会文化科学研究科
	持続可能な教材開発プロジェクトのために教師がWebですべきこと	電子書籍について学ぶカリキュラム開発の試み	書籍メディアの表示特性と読書行為の関係性	大学生の情報環境に合わせた商用コンテンツの利用と結果	共通カリキュラム化を通じた大学生協九州事業連合2016年度PC講座改善の取り組み

分科会(ポスター)発表(立ち会い時間 8月11日(木)14:00-15:00)

NO	氏名	所属	タイトル
1	藤井康寿	東海学院大学人間関係学部子ども発達学科	絵本の読み聞かせ評価システムの開発と実践結果
2	鈴木治郎	信州大学全学教育機構	学生は本当に1行ごとに改段落して文章を書いているのか
3	鳥居隆司	椋山女学園大学 文化情報学部	Webブラウザベースのオブジェクト指向言語実行環境
4	白井詩沙香	武庫川女子大学 生活環境学部	多種ある数式自動採点システムの統一解答入力の提案
5	上村拓磨	三重大学工学研究科	プログラミングスタイル習得のための自己学習環境
6	四方雅晴	三重大学大学院工学研究科	プログラミング演習システムにおける音と色を用いたユーザインターフェースの改善
7	賀来亨	日本医療大学保健医療学部看護学科	プレゼンテーションソフトを使用したタブレット端末による双方向性授業の検討
8	渡辺千晶	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科	視覚障害者学習支援のためのMathML変換
9	樋口三郎	龍谷大学理工学部	携帯電話を用いた出席調査システムの一事例における利用傾向と持続可能な運用
10	北英彦	三重大学大学院工学研究科	プログラミング素養診断テストの有用性の検証
11	張莉	三重大学大学院工学研究科	中国人の日本語学習における誤りの共有と学びあいによる協働学習
12	小池翔太	立命館小学校	小学校における説明文を書く授業開発とプレゼンテーションアプリSway活用の試み
13	伊藤慎治	三重大学大学院工学研究科	記述式解答群の主要な内容の把握支援 - 三段階表示の効果の検証 -
14	野田弘一	特定非営利活動法人 CEセンター 理事長	低学力児童・生徒の認知特性に応じて演習課題を提供する学習支援システムの開発
15	戸上稔崇	三重大学大学院工学研究科	プログラミング演習のためのプログラムテスト支援機能
16	齋藤伸也	慶應義塾普通部 保健体育科	男子中学生の体育授業における映像情報活用が運動有能感に及ぼす影響について
17	福田美誉	株式会社ワークアカデミー 開発本部	「情報実践創造力」を育成する「仕事体験学習」の実践と考察(2)
18	桑名杏奈	お茶の水女子大学 情報基盤センター	e-Learningにおける授業動画の活用
19	廣田知子	お茶の水女子大学 情報基盤センター	ALSの活用について(1)
20	占部弘治	新居浜工業高等専門学校 電子制御工学科	プログラミング科目の理解を助けるインタラクティブ教材の検討
21	加藤良将	椋山女学園大学 文化情報学部	インタラクティブ表現の支援のためのプラットフォームの検討
22	塩田真吾	静岡大学	各年代のネット利用に関する認識・感覚のズレに関する調査研究
23	酒井郷平	静岡大学教育学研究科	学校に求められるICT支援員の資質・能力と教員との関係構築過程の分析
24	本橋一寿	八王子市立第十小学校	情報を活用して課題解決をするための指導の工夫
25	兼松篤子	名古屋大学 大学院情報科学研究科	文学作品におけるオープンデータ化の取り組みとその展望
26	神山博	青森公立大学 経営経済学部	反転型基礎情報科目におけるクラウド型教材の利用と効果の検討
27	秋山翔太	東京インターカレッジコープ(拓殖大学)	東京インターカレッジコープの広報活動の新たな展開
28	阿濱茂樹	山口大学教育学部	地域連携によるICT活用教育のための教育実践学的研究
29	佐久間貴士	高崎商科大学	教育支援システムによるコミュニケーションスキルの向上に向けた取り組み
30	木村友久	山口大学国際総合科学部	特許検索システム(YUPASS)の開発
31	土屋孝文	中京大学工学部	プログラムを言葉で表現する協調的活動 - 基本アルゴリズムの学習場面を例に

2016PCカンファレンスプレ企画

# Panasonic 神戸工場見学のご案内

大学生協全国共同仕入事務局

2016PCカンファレンス@阪大のプレ企画として日本で数少ないPC生産工場であるPanasonic神戸工場の見学の企画をご案内いたします。PC生産の大半は海外に生産拠点があり国内で生産現場を見学できる機会は非常にまれとなっています。今回PCカンファレンスが阪大で開催されますので、神戸にあるPanasonic神戸工場の見学会をご案内いたします。

## 【Panasonic神戸工場 見学日程】

開催日：2016年8月9日（火）

### 見学スケジュール

- 13:30 神戸地下鉄「西神中央」駅集合～移動  
(三宮、新神戸より40分程度)
- 14:00 パナソニックPC事業のご説明
- 14:10 神戸工場のご紹介
- 14:30 工場見学 (15名 4班)
- 16:00 感想交流 全体
- 17:00 見学終了
- 17:30 西神中央にて解散

PCC前泊先へ各自移動いただきます。

見学定員 60名 (最低催行人員は、最低10名とさせていただきます)  
※参加費無料 (交通費は実費です)

### お申込み方法

別紙申込書をメールおよびfaxにて下記へお送りください。

### 【申し込み先】

FAX・メール送付先: 大学生協東京事業連合第一事業部  
(全国共同仕入れ事務局) 山口宛

・FAX番号: 03-5307-1184

・E-mailアドレス: yamaguchi.msm@univcoop.or.jp

※参加申込書締切 7月25日(月)16:00 まで

FAX送付先 03-5307-1184

2016PC カンファレンス@阪大豊中 プレ企画  
Panasonic 神戸工場見学会 参加申込書

お名前	所属	学生／教員／職員 ／他	返信連絡用 e-mail

※お知らせいただいた個人情報は、本企画のみのご案内、ご連絡のみに利用させていただきます。  
※本企画は、PC カンファレンス参加される学生、教職員の方への企画とさせていただきます。PC 関連会社様のご参加はご遠慮いただくこともございますので予めご承知置きください。

【申し込み先】

FAX・メール送付先: 大学生協東京事業連合第一事業部  
(全国共同仕入れ事務局) 山口宛

・ FAX番号: 03-5307-1184

・ E-mailアドレス: yamaguchi.msm@univcoop.or.jp

※参加申込締切 7月25日(月)16:00 まで

## PCカンファレンス専用宿泊プラン

PCカンファレンス公式ウェブサイトの「宿泊申し込み」からお申し込みください。

なお、この商品はすべてクレジットカード専用商品です。

※時期的（夏の甲子園高校野球開催中）にも大変ホテル確保が難しい状況です。お早目の手配をお勧めいたします。

### 大阪駅付近 ホテル法華クラブ大阪

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	10:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>11,000</b>

### 新大阪付近 ヴィアイン新大阪ウエスト

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	10:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>8,900</b>

### 大阪駅付近 ハートンホテル西梅田

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	14:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	12:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10	<b>13,000</b>
8/11	<b>11,800</b>

### 吹田 新大阪江坂東急REIホテル

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	11:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>15,000</b>

### 大阪駅付近 ザ・ホテルノース大阪

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	11:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>8,100</b>

### 吹田 サニーストンホテル

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	10:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/9・10・11	<b>8,800</b>

### 大阪中央地区 湯元「花乃井」スーパーホテル

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	10:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>9,800</b>

### 新大阪付近 新大阪サニーストンホテル

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	10:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>10,500</b>

### 大阪中央地区 シティプラザ大阪

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	11:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>12,500</b>

### なんば・日本橋 ホテルサンルート大阪なんば

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	11:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>10,800</b>

### 大阪駅付近 ホテルグランヴィア大阪

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	15:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	12:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>18,000</b>

### 大阪駅周辺 プラザオーサカ

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	14:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	11:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/9・10・11	<b>14,200</b>

### 大阪駅周辺 ホテルユニゾ大阪淀屋橋

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	14:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	12:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>13,400</b>

### 千里 千里阪急ホテル

<input type="checkbox"/> 食事条件	朝食付
<input type="checkbox"/> チェックイン	14:00
<input type="checkbox"/> チェックアウト	12:00
<input type="checkbox"/> お部屋	シングル/バス・トイレ付
<input type="checkbox"/> 宿泊日/旅行代金(お一人様/1泊2日・朝食付)	
宿泊日	旅行代金
8/10・11	<b>15,000</b>

## 参加お申し込みのご案内と注意事項

### ■参加申し込み

6月1日以降、下記公式サイト「参加登録」からお申し込みください。

<http://www.ciec.or.jp/event/2016/>

### ■受付の時間と場所

まず、受付で名札と資料（大会プログラム・CD 版論文集等）をお受け取りください。（会場では必ず名札をつけてください）

受付場所：大阪大学豊中キャンパス 全学教育推進機構 B棟 1Fフロア

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/>（大阪大学キャンパスアクセス）

<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/access>（大阪大学豊中キャンパス）

受付時間：8月10日：10:00～ 8月11日・12日：8:00～

### ■参加費について

- ・参加費（CD 論文集・資料含）

一般

5,000 円（税込）/当日 6,000 円（税込）

学生・院生

1,500 円（税込）/当日 2,500 円（税込）

- ・8/11「イブニングセッション」（参加費）

500 円（税込）

- ・8/11「CIEC 総会」（お弁当・お茶）

1,000 円（税込）CIEC 会員でない方も傍聴できます。

- ・8/11「レセプション」

5,000 円（税込）

### ■支払い方法について（お早めの手続きをお願いします）

合計金額を事前に下記ゆうちょ銀行にお振込みください（手数料はご本人負担）

念のため振込受領書をご持参ください。

ゆうちょ銀行 00140-2-725117 加入者名 全国大学生生活協同組合連合会

他の金融機関から振込をされる場合は下記口座宛にお振込みください。

ゆうちょ銀行 019（ゼロイチキュウ）店（当座）0725117

口座名 全国大学生生活協同組合連合会

### ■参加キャンセルについて

7月25日（月）までに連絡をいただいた場合は全額を、8月3日（水）までに連絡をいただいた場合は半額を返金します（送金手数料はご負担いただきます）。以降のキャンセルならびに連絡がない場合は返金できませんのでご了承ください。

### ■論文集のダウンロードについて

参加申し込みをされると、7月25日（月）以降に論文集がダウンロードできます。（CD 論文集は当日配布で事前には送付されません）

### ■その他

- ・撮影について

会場での講演・ポスターの撮影は、発表者の了承を得た場合に限り認めています。

また、発表者の了承を得て撮影する場合でも周囲の方に迷惑がかからないようにしてください。